

第3章 第1次計画の結果及び評価

前計画では、5つの柱を目的として、それに対する目標と14の評価指標を設定しました。(前計画の32ページ)。その評価指標について、計画策定時の値と直近の値を比較し、目標を達成したか○×で判定しました。

	目標	評価指標	現状値		H28年度までの目標値	目標値の判定	第1次計画の評価と今後に向けて	
			H23年度計画策定時	直近の値				
1. 健康につながる食生活の確立	●規則正しい生活リズムと望ましい食習慣を身につける ●栄養バランスの良い食生活の実現	朝食を毎日摂取する子どもの割合	市内A・B小 90.7%(※1)	園児 94.9%(※8)	全市で統一したアンケートを実施し100%を目指す	×	市内すべての園児、小・中学生に配布する食育たよりや小中学生向けの食育教室等において、朝食の意義や簡単な朝食のとり方について啓発しましたが、摂取率は100%になりませんでした。今後はさらに園や学校、関連課と連携し、朝食の重要性等を伝えていきます。	
			市内A中 89.5%(※1)	小学生 94.2%(※8)		×		
				中学生 88.9%(※8)		×		
		主食・主菜・副菜のそろった朝食を摂取する子どもの割合	全市では未把握	園児 27.5%(※8)	現状把握のもと目標値を設定	○		園児、小・中学生の実態を把握できたため、今後はバランスのよい朝食をとる子どもが増えるよう、たよりやSNS等によって簡単な朝食レシピ等を発信していきます。
				小学生 35.1%(※8)		○		
				中学生 34.0%(※8)		○		
	成人の朝食を欠食する人の割合	20歳代男性 18.9%(※2)	20歳代男性 32.2%(※9)	15%以下	×	中小企業の健診時に簡単朝食レシピの紹介などを行いました。20歳代30歳代とも目標を達成できませんでした。今後は成人式や様々なイベント、教室で朝食の意義や次世代への影響について啓発していきます。		
		30歳代男性 28.8%(※2)	30歳代男性 17.8%(※9)	15%以下	×			
	一口30回かんで食べるよう意識している人の割合	中学1年生 15.0%(※3)	中学1年生 9.8%(※8)	増加	×	中学生には授業や給食の時間において、成人には特定保健指導の教室や地区での健康教育において、よくかむことの効果について伝えてきました。割合は中学生で減少、成人で増加しました。引き続き、よくかむ人が増えるよう取り組んでいきます。		
		成人 19.5%(※2)	成人 23.8%(※10)	増加	○			
●食品を選択する力を育む	お菓子・ジュースを一日3回以上摂取している子どもの割合	1歳児、1.6歳児、2歳児、3歳児の平均 15.7%(※4)	1歳児、1.6歳児、2歳児、3歳児の平均 5.6%(※11)	減少	○	栄養だよりや乳幼児健診時の指導などにより割合は減少しました。引き続き、肥満やむし歯予防のための適切な嗜好品の摂取について、情報提供していきます。		
	嗜好品を1日2回以上食べている成人の割合	女性 63.7%(※2)	女性 54.4%(※10)	減少	○	特定保健指導やいいもんまつり等で、嗜好品に含まれる砂糖の量を展示するなどし、割合は減少しました。今後も様々な機会に嗜好品の媒体を展示し、適切な嗜好品摂取のための支援を行っていきます。		
●適切な体重管理と生活習慣病予防	子どもの肥満(肥満度15%以上)の割合	園児 5.0%(※5)	園児 4.7%(※12)	4%以下	×	肥満傾向児の保護者と個別面談をするなど取り組んできましたが、目標は達成できませんでした。今後も適量の食事や嗜好品等様々な面から肥満対策を行っていく必要があります。		
	成人の肥満(BMI25以上)の割合	成人男女 25.5%(※6)	成人男女 24.3%(※13)	15%以下	×	特定保健指導の教室や地区での健康教育において、食事のバランスや自身の適量について講話や調理実習で普及し、割合は減少しました。さらに肥満者が減るよう、市報や各教室等で肥満予防のための生活習慣の定着を支援していきます。		

2. 地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地産地消の推進 ●米および地場産食材の消費拡大 ●食の安全確保、不安解消のための情報発信 	地場産の米や野菜をよく購入する人の割合	20歳代男女 12.0%(※2)	20歳代男女 11.9%(※9)	増加	×	いいもんまつりやイベント等で地場産の食材を使った試食を提供するなどPRに努めてきましたが、目標は達成できませんでした。引き続き各イベント等に参加し、地場産物の利点などを伝えていきます。
3. 食文化の伝承・発展	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭や地域の伝統料理や郷土料理の伝承・発展 ●正しい食事マナーを身につける 	「いただきます」「ごちそうさま」の習慣がついている3歳児の割合	3歳児 89.0%(※4)	3歳児 95.6%(※11)	100%	×	食事時のあいさつを含めたマナーについて、乳幼児健診時や栄養だよりにおいて周知しましたが、目標は達成できませんでした。今後も乳幼児健診時や栄養だより等によってマナーの大切さを保護者へ情報提供していきます。
		1日1回は家族そろって食事を食べる者の割合	全市では未把握	全市民 86.5%(※9)	現状把握のもと目標値を設定	○	市民への調査によって実態を把握できたため、今後とともに食事を食べることが大事な食育の機会になることを啓発し、更に割合が増えるよう取り組んでいきます。
		胎内の伝統料理レシピ集作成	—	作成	作成	○	伝統料理を含めた食育推進レシピ集は、食育推進レシピ編集委員が中心となり、平成26年度に作成しました。平成33年までに第2版を作成し、さらなる伝承料理等の普及に努めます。
5. 人づくり、市の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●食育を推進する人材の充実をはかり、地域における食育活動の推進、農業体験や交流活動を促進する ●胎内市の特産である米粉や地場農産物を活かし市の活性化を図る ●家庭・地域・園・学校・行政が一体となり食育の推進を図る 	食育の認知度 (言葉も意味も知っている人)	高1 31%(※7)	高1 未把握	増加	×	いいもんまつり等において食育のクイズを行うなど、全世代向けに認知度向上のための取組をしました。高校生の実態は把握できませんでしたが、それ以上の年齢の実態は把握しました。今後も各イベントや市報により認知度が向上するよう取り組みます。
		食育に関心がある人の割合	未把握	62.6%(※9)	現状把握のもと目標値を設定	○	
		食生活改善推進委員の人数 (食生活改善推進委員協議会)	108名(H23年度末)	101名(H28年度末)	130人	×	平成27年度に養成講座を行い、新たに21名が会員になりました。しかし、諸事情により毎年退会する会員がいることから、平成33年までに養成講座を行い、新規会員を増やすとともに、現在の会員の人材育成に努めていきます。
		食育推進計画の積極的なPRをする	—	—	全世帯に計画の概要版を配布する 広報で随時周知する	×	全世帯に計画の概要版は配布しませんが、毎年ホームページに計画の進捗状況をのせ、様々なイベント等での啓発を行いました。2次計画は概要版や広報、ホームページ等を広く活用し周知していきます。

※1 H22年度食生活アンケート調査(東学校給食センター) ※2 H21年度生活習慣に関する調査(胎内市) ※3 H22年度お口の健康に関する調査(胎内市) ※4 H23年度母子健診(胎内市)
 ※5 H23年度新潟県小児肥満等発育調査 ※6 H22年度特定健診(胎内市) ※7 H23年度食に関するアンケート調査(中条高等学校) ※8 H25年度こどもの食育調査(胎内市) ※9 H27年度食生活に関する調査
 ※10 H26年度生活習慣に関する調査 ※11 H27年度母子健診(胎内市) ※12 H27年度新潟県小児肥満等発育調査 ※13 H27年度特定健診(胎内市)